

2年ぶり 笑顔の式典

松山東雲女子大・短大

松山東雲女子大・短期大の卒業式が12日、松山市桑原3丁目の同大チャペルであった。新型コロナウイルス感染症を受け昨年は式が中止されており、2年ぶりの挙行。卒業生は開催された喜びをかみ締めながら笑顔で学びやを巣立った。

式では密を避けるため保護者や来賓の参加は見送り、はかま姿の卒業生約330人が間隔を空けて着席。感染リスクを下げるため賛美歌斉唱も見送った。

高橋圭三学長が各科・専攻の代表者5人に卒業証書と学位記を授与。「東雲で身に付けた知識を生かし、心が喜ぶ経験を他者と共有できる人になってほしい」とエールを送った。

2人の卒業生が答辞を述べ、女子大心理子ども学科の明神茉莉さん(22)は、「大学で講義を受け、友人と笑い合う当たり前の日常がいかにありがたかったのかを思い知った」とコロナ禍の中の学生生活を回顧。短期大保育科の近見菜月さん(20)は「実習を終え、仲間と再会した際に達成感や安堵(あんど) 感を共有したあの時間は忘れることができない」と涙をこらえながら語った。

式後も卒業生は教職員らと記念撮影するなどして別れを惜しんでいた。心理子ども学科の佐藤雅さん(22)は「大学で学んだことを生かし、園児の心に寄り添える笑顔のすてきな保育士になりたい」と目を輝かせていた。

(増田有梨)



卒業式を終え、恩師と記念撮影する卒業生 12日午前
松山市桑原3丁目

抱く大志 社会へ巣立ち 県内大学・短大・専門学校卒業式